



読書は単に知識の材料を提供するだけである。それを自分のものにするのは思索の力である。(ジョンロック イギリスの哲学者)

市町村の図書館や図書室が拠点となり 地域の読書活動が充実

各市町村は、地域の読書活動を進めるために、読書活動を推進する職員を独自予算で配置したり図書館や公民館図書室で読書イベントを開催したりして、地域の実情に応じた読書環境づくりを行っています。そうした市町村の取組や、本を読んだり本について語ったりして楽しむ人々の様子を、毎月、この「読書活動だより」で紹介してきました。

今年度、県では、生涯にわたって読書に親しむことができるように、幼少期から読書習慣を形成できる環境の整備・充実を図ってきました。

その一つが、市町村における「子ども読書活動推進計画」の策定支援です。2月末の策定状況は右の地図のとおりです。策定作業に入った市町村が増えました。今後も、全市町村が計画を策定できるよう、情報提供等でサポートしてまいります。

もう一つが、「打って出る司書」による読書推進体制整備の支援です。県立図書館の専門的な知識と技術をもった司書が、5月から市町村に出向いてサポートやコーディネートを行ってきました。来年度も、図書館や公民館図書室が地域の読書活動の拠点となるように、訪問回数を増やしていく予定です。

「子ども読書活動推進計画」策定状況
平成25年2月末現在



1月の「打って出る司書」の訪問

訪問のかたち	回	訪問図書館・公民館図書室等
市町村図書館等 巡回訪問	2	由利本荘市中央図書館・秋田市立中央図書館明徳館
希望に応じて行う 研修・支援	4	羽後町立図書館・八峰町文化交流センター 大湍村公民館・稲川カルチャーセンター



五城目町中央公民館図書室

リニューアルで利用者大幅増



窓に「図書室」の存在を表示

五城目町の公民館図書室が昨年度リニューアルオープンしました。平成22年度は800人だった年間利用者が、昨年度は1,308人、今年度は1月末現在で1,310人になっています。

五城目町教育委員会は、平成23年度から、年3回程度、県立図書館の司書の訪問による助言を受けながら、図書室の環境を整備してきました。書架の手前に本を並べたり面出ししたり、分かりやすい本の配列表示、用途を考えた机の配置、興味をひきつけるコーナー展示などを行うことにより、「本が探

しやすい。」「居心地がいい。」「居心地がいい。」と言って、地域の人がたくさん訪れるようになりました。

図書室は、公民館の休館日となる12月31日から1月2日までをのぞき、毎日、午前8時30分から午後7時まで利用できます。午前中の早い時間帯から調べものをする人もいれば、仕事帰りに本を借りる人もいます。また、隣接する温水プール帰りの親子が、絵本や児童書を借りていくことも多いそうです。

図書室のリニューアルによって、ライフスタイルに合わせて読書に親しむ人が増えました。



座って読める絵本のコーナー



作者の名前で探せる小説コーナー



秋
田
市

土崎図書館友の会と秋田市立土崎図書館が共催

児童朗読大会



会場となった研修室は超満員

土崎図書館「友の会」が、土崎図書館と共催で、児童朗読大会を行うようになって14年になります。「地域の小学生が、図書館に親しみを持ち、たくさん図書館に来るようになってほしい」「声に出して本を読むという、黙読では味わうことのできない感動を体験してほしい」と願って始めたそうです。

発表する児童の読む力が向上するのはもちろんですが、応援に来た友達や付き添いの家族にとっても刺激になり、それぞれの豊かな読書生活につながっていく取組になっています。

2月2日、低学年の朗読大会が行われました。午前の部で発表したのは、北部地区9小学校の25名の1年生。国語の教科書の題材「くじらぐも」「ずうとずっと大すきだよ」「たぬきの糸車」の朗読を、家族、教師、友達などおよそ150人の前で披露しました。

「学校で予選をやって選ばれたんだよ。」「毎日、学校と家で10回練習しました。」「校長先生が特訓してくれた。」「という児童たちだけに、読む姿勢や読む速さ、声の出し方、感情の込め方など、いずれも甲乙付けがたい朗読でした。

審査の間、図書館の学校図書館支援員の中山さんが、手遊びと大型絵本の読み聞かせ、パネルシアターを行いました。緊張から解放された児童たちは、目を輝かせておはなしを聞いていました。

土崎図書館はこうした取組の積み重ねによって、地域の住民に親しまれています。



手遊びを楽しむ参加者たち

第2回読書のつどい「加藤正人講演会」 文学から映画の世界へ

2月2日、県と県立図書館が主催する加藤正人氏の講演会が秋田市文化会館で行われました。加藤氏は能代市出身の脚本家で、「クライマーズ・ハイ」や「孤高のメス」などで日本アカデミー賞のほか、多くの脚本賞を受賞しています。昨年9月、県立図書館では、



読書だけでなく、映画に興味がある人も参加しました

郷土資料コーナー展示「脚本家・加藤正人と映画『天地明察』」を行いました。

およそ150人の参加者たちは、文学作品が脚本を経て映画になっていく過程や、映画監督とのエピソード、原作と脚本の違いなどについて耳を傾けていました。講演後、「本と映画という共通部分の多い『文化』を勉強する良い時間となった。」「原作の登場人物や情景を脚本化することは、創造力を必要とする難しい仕事なのだと思います。」「文学と映画の違いと、それぞれの楽しみ方が分かった。」「分かりやすいおはなしを聞いて、読書の楽しみが広がった。」「という感想を述べていました。



交流司書の
見たり聞いたり

人事交流で得た経験

小玉知永

秋田県立
図書館発

早いもので、県立図書館での勤務も残りわずかとなりました。この一年間、レファレンスや市町村巡回、本の修理など、様々な仕事に携わってきました。テーマ展示は、もちろん実際に作ることが勉強となりましたが、他の職員が作る展示を見るのも参考になりました。来館した方と同じ気持ちで楽しみながら、こんな展示を作りたいという思いになりました。短い期間でしたが、県立図書館での勤務は大きな経験となりました。

また、県立図書館の職員や利用する方々と交流することで得られた人とのつながりは、同じ舞台上で仕事をする上で非常に貴重な財産となります。由利本

荘市に戻ってからも、県立図書館と密に連絡を取り合って、相互に高め合い、足りない部分は補完し合うことで、より良いサービスを提供できるように努めていきたいと思っております！



2月のテーマ展示「めざせイクメンNo.1」

秋田県教育庁生涯学習課
生涯学習・読書推進班



URL <http://www.pref.akita.lg.jp/syogaku/>